

平成28年度 第2回
寒河江市総合教育会議
会 議 録

平成29年2月22日 開会

平成29年2月22日（水曜日） 平成28年度寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

寒河江市長	佐藤洋樹	
寒河江市教育長	草苺和男	
寒河江市教育委員	菊地道子	松田彌生子
	鈴木淳一	國井晴彦

○ 事務局職員の職氏名

総務課長	菅野英行	総務課課長補佐	小泉尚
学校教育課長	山田健二	管理主幹	佐藤肇
生涯学習課長	高林雅彦	スポーツ振興室長	鈴木隆
学校教育課課長補佐	國井協一	学校教育課課長補佐	白田純一

○ 日程

平成28年度 第2回総合教育会議日程
平成29年2月22日（水曜日）

午後3時30分 開議
市役所 議会会議室

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議
 - (1) 今年度の本市の教育について
 - (2) これからの寒河江市の教育の推進のために
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

1 開 会 午後3時30分

○佐藤肇管理主幹

ただ今より、平成28年度第2回寒河江市総合教育会議を開会いたします。

それでは次第に従いまして、進めてまいります。2番のあいさつということで、佐藤市長からよろしくお願いいたします。

2 あいさつ

○佐藤洋樹市長

皆さん、こんにちは。今日は、平成28年度の第2回寒河江市総合教育会議にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。

前は10月31日ということで、本市の学力の状況とか、いじめ問題の状況などについて、ご協議をいただきましたが、今日は2月22日ということで、28年度もあとひと月となり、寒河江市では2月28日から市議会が開催されることになっております。そこでは、新年度の当初予算についてご提案をし、ご審議いただくことになっております。そういう意味で今日は28年度の総括についてご意見をいただきながら、また来年度以降の新たな取り組み、事業・施策などについて、いろいろご協議いただきまして、是非忌憚のないご意見をちょうだいして、有意義な会議にさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○佐藤肇管理主幹

ありがとうございました。それでは、3番の協議に入りますが、座長を佐藤市長からお願いをしたいと思います。

○佐藤洋樹市長

それでは、早速次第にしたがって、協議を進めたいと思います。(1)今年度の本市の教育について、①今年度の教育の総括について、山田課長の方からお願いします。

○山田健二学校教育課長

それでは、資料1をお開きいただきたいと思います。平成28年度寒河江市の教育、主要事業と総括一覧でございます。今年度は、第2次寒河江市教育振興計画の初年度にあたり、ふるさとを愛し、寒河江から夢ある未来を切り拓く人づくりを基本目標に、5つの基本方針を設定し、その推進を図ってまいりました。ここではその基本方針毎に主な事業について、ご報告をさせていただきます。

基本方針1、豊かな心と健やかな体を育むに関わる事業ですが、主なものをご説明申し上げます。さがえっこ育み推進事業では、学校、家庭、地域が連携して、子どもたちを育む指針として、さがえっこの育み10カ条を改訂し、その普及啓発を図りました。学校給

食事業では、毎月19日を中心にさがえ食育の日を設定して、地産地消を含めた食育の推進を図りました。その際、今年度から地場産のかぼちゃや葉物など冷凍保存して活用することにも取り組みました。読書普及事業では、さくらんぼのまちさがえ全国俳句大会や、さがえ図書館まつり、またシリーズ山形の文学を探るなど多彩なイベント等により読書機会の提供や機運を図りました。また、芸術文化振興事業では、慈恩寺コンサートや野村萬斎、ロザンの公演など、多くの市民が優れた芸術文化に触れることが出来る機会を提供いたしました。

次に、基本方針2、学ぶ力を身に付け、未来を切り拓く資質や能力を育むに関わる事業について申し上げます。学力向上事業では、NRTと呼ばれる標準学力調査や知能検査を継続的に実施し、学力の向上を図っております。ただ小学校6年生と中学3年生を対象にした、全国学力調査では小中ともに全国との差は縮まっているものの、まだ改善すべき点が見られます。そこで教育研究推進事業において、本年度から市教育委員会研究指定を中学校区毎に変更するとともに、市教育研究所の組織も大幅に見直し、来年度からは、小中連携による学力の向上を積極的に図ることとしております。またグローバル化への対応としては、英語力育成事業において8月から外国語指導助手、いわゆるALTを1名増員し、中学校区毎の派遣を可能にしたことは大きな成果と言えます。

次に基本方針3、生涯にわたって生き生きと学び続ける取組の推進に関わる事業について申し上げます。寒河江さくらんぼ大学推進事業では、5キャンパス7学部による多彩な講座の開催により、市民の学習機会の充実を図るとともに、公民館活動事業においては、各地区公民館活動や分館活動を支援し、地域活動の活性化を図りました。

また、放課後子ども教室推進事業では、放課後や週末等の休みにおける安心安全な活動拠点を確保し、放課後等の有意義な過ごし方を提供してきました。保健体育総務事業では、高橋尚子さんをゲストランナーに、過去最高の約2400人の参加者を得た、さくらんぼマラソン大会を開催するなど、スポーツ人口の交流に努めました。また、平成29年度開催の全国高等学校総合体育大会、男子バレーボール競技大会に向けて、体育施設整備事業において、体育館アリーナの改修やトイレの洋式化を行いました。

次に、基本方針4、ふるさとに誇りをもち、郷土の歴史と文化を大切にする心を養うに関わる事業について申し上げます。ふるさと学習支援事業では、各学校の郷土学習を支援するとともに、本山慈恩寺や観光ボランティアのご協力もいただきながら、慈恩寺での校外学習等を充実させるとともに、今年度初めて教員対象の慈恩寺研修会も実施しました。指定文化財等補助事業では、慈恩寺本堂の屋根修理事業等の補助を行ったほか、郷土館保存事業では、県の補助を受けて旧西村山郡役所の壁の塗替え工事を行いました。

史跡慈恩寺旧境内総合調査事業では、史跡慈恩寺旧境内保存活用計画策定委員会を開催するとともに、慈恩寺修験の道ウォーキングや慈恩寺講演会の開催、慈恩寺タイムスの発刊等により慈恩寺文化の情報発信に務めました。

最後に、基本方針5、教育を取り巻く環境や社会の変化に応じた取組を推進するに関わる事業について申し上げます。生涯学習の拠点である分館については、公民館整備事業により、耐震補強工事やエアコン・LED照明等の工事に対する補助を行いました。また、寒河江型コミュニティセンターの検討も進めております。小中学校管理事業では、小学校低学年女子トイレに洋式便器の増設、寒河江中部小学校のボイラー及び煙突の更新工事、陵南中学校の教室床面のたわみ修正などを行いました。児童生徒数の推移、施設設備の長期的な展望、新しい教育制度など、教育を取り巻く環境は変化しております。そのような中、これからの本市の学校のあり方を検討していくため、県内初の中高一貫校、東桜学館や、県内初の施設一体型小中一貫校、新庄市立萩野学園への視察研修も実施したところであります。以上、本年度の主な事業についてご説明申し上げます。

○佐藤洋樹市長

どうでしょうか。今の説明についていろいろ質問とかご意見とかありませんか。説明資料が色刷りになっているのはどういう意味ですか。

○山田健二学校教育課長

黒文字は学校教育課が主にかかわる事業、紫文字は主に生涯学習課が所管する事業になっています。

○佐藤洋樹市長

委員の皆さんから、何かご意見ご質問等ありませんか。説明や内容についてとか。

○佐藤洋樹市長

それでは、私の方から一つ、ALTを3名にしたのはいつからですか。

○山田健二学校教育課長

8月からです。

○佐藤洋樹市長

約6か月ということですね。子どもたちの変化や学習効果としてはどうでしょうか。

○山田健二学校教育課長

英語力の数値的なものは、まだはっきりしませんが、ALTが一生懸命指導をしていることに各学校では好評を得ております。特に中学校の方で活用を、もう少し増やしてほしいという要望がありましたので、3学期からは中学校への派遣を増やすなど、ALTを積極的に活用して、英語力の推進を図りたいという流れが生まれております。

○佐藤洋樹市長

小学校でする英語は、何年生からですか。

○山田健二学校教育課長

今現在、外国語活動といわれるものが、5～6年から必要なので中心にやっておりますが、低学年1年生から中学年4年生までが、慣れ親しむということで、そちらの方に発展しております。

○佐藤洋樹市長

一つ皆さんの方から何かありませんか。菊地委員いかがですか。

○菊地道子委員

こちらの資料については、いままでの教育委員会でも大部説明していただいておりますので、私の方からは私の考えを述べさせていただきたいと思います。

私からは、いじめ、不登校、学力について、私の思っていることを話させていただきます。今年度も小学校5校、中学校2校に学校訪問させていただきましたが、どの学校も整理整頓が出来ており、子供たちはきちんと挨拶をしてくれて、元気に学校に行けているようでした。授業も落ち着いて学習に取り組んでいるようでした。

いじめについてですが、すべての学校や行政も組織的に取り組むという体制が取られました。さらに生徒会活動やPTAとも連携しながら、みんなで真摯に取り組んでいると思われます。ただいじめは重大なことを生むことがありますので、今後も気を抜くことなく、常に意識化することが大切と思われます。

次に不登校についてですが、残念ながら不登校は前年同様、若干多めの推移になっております。ドキュメンタリー映画に、みんなの学校というのがあります。大阪の公立小学校で不登校がゼロという学校なのですが、文科省の職員研修でも事例化されております。その小学校の校則はただ一つ、自分がされて嫌なことは人にしない、言わない、であるということです。木村泰子校長の持論は、すべての子どもが学習する権利を保障する学校を作るということでした。子どもは学校に自分の居場所があれば、また信頼できる子どもの声を聴く大人がいて、安心できる居場所があれば、学びたいという本質的な欲求はあるはずですので、学校に行くのではないかと思われます。私も本を読んだのですが、学ぶべきことは多くあると思われます。

最後に学力についてですが、2020年に大学入試改革を文科省が打ち出し、全国学力テスト、また高校入試には、既にこの改革の流れに沿った問題となっております。以前求められていた知識の記憶学習から、自分で考える応用力、活用力、創造力、問題発見、解決力等が求められるようになりました。基礎力をしっかり付けた上で、答えが一つに定まらない問題に、自ら答えを見出していく、思考力、判断力、表現力が求められています。

授業においては、一方的に教師が教えるのではなく、生徒同士の対話を含む授業の推進が一層望まれます。また様々なケースの問題を、実際解いてみるという経験を積むことが必要です。市内の中学校では、中2の数学の授業では、一クラスを半分に分けて少人数にし、二人の教師が授業に当たり、更に数学や英語の授業には、補助教師1名が入りサポートにあたるという取り組みが行われています。限られた時間の授業の中で、基礎力から活用力まで子ども達に身に付けてもらうには、地域の力も借りながら、きめ細やかな指導が求められています。また子どもが30人いれば30通りの学びがありますが、30通りの指導をすることは不可能です。学力を上げていくためには、子どもが自分でものを考える、自分で動く、自分で学習する、という主体性を持つことが求められます。どうしたら子ども達にそういった主体性を付けられるのか、小学校のうちから中学校にかけて、さまざまな学びあいをお願いしたいと思っております。以上です。

○佐藤洋樹市長

はい。ありがとうございました。鈴木委員の方からお願いします。

○鈴木淳一委員

それでは、私の方からは生涯学習の推進とスポーツの振興について、今年度の総括についてお話をさせていただきたいと思えます。

第2次教育振興計画の1年目として始まったわけですが、その中の生涯学習については基本方針4の中の郷土愛の育成について、ふるさとへの愛情と誇りを育む教育の推進というのが、寒河江らしい教育ではないかと感じていました。その中でも郷土の歴史と文化を大切に活動ということで、慈恩寺に特化した教育が、寒河江らしさを出したと思えました。特に小中学生の修学旅行先などで、学んだ事をチラシにして配布しPRする取り組みなどは特に目立ちましたし、私たち教育委員も参加した、修験の道を歩くなどは新たな企画でもあり慈恩寺を大きく内外に発信したと思われれます。また慈恩寺だよりの発刊、慈恩寺コンサートや慈恩寺の講演会を開催するなど慈恩寺に特化した、以前ふるさとCM大賞で流れていたような、寒河江と言ったら慈恩寺だというように注目されていたのかなと思えました。これからは、今以上に慈恩寺を整備して、来られる方にもわかりやすいような解説板などを作る必要があるのかなというように思いました。芸術文化振興事業につきましては、季節的に様々な予定のある方もいるようですので、そのような方も考慮して企画すべきだと思われれます。市民講座のさくらんぼ大学については、今年度で3年目ということで、かなり認知されていると感じます。ただ受講生を伸ばすだけでなく、少数であっても学びやすい定員で運営しなければ受講に影響があるのかなというように感じました。多くてもどうかと思いますし、丁度いい人数の講座が必要なのだと思います。講座開講のオープニング講演では、かなりの人気があるのでそこは大切にさせていただきたいと思えます。

スポーツの振興につきましては、さくらんぼマラソン大会が40回目を迎えたということで、2400名を超す参加者が来られたということで、大変嬉しく思っております。寒河江のランナーのレベルアップということも考えますと、特に女子駅伝では、県で4位になったという素晴らしい成績ですので、市民ランナーがもっと増えることで、親しみやすいさくらんぼマラソンになればと思います。市の体育館工事も行ったということで、一昨年のテニスコートを改修したということや、室内練習場のチェリーナさがえは、夜9時半まで利用できるということで、資料にもあるように夜間活用の方が多く増えているということが、市民としても喜ばしいことだと思います。また新たなグリバーさがえというカヌー競技が出来る施設もあるということで、いろんな仕掛けをしながら新しいスポーツも出来る環境があるということは市民にとって、スポーツに取り組みやすい市なのかなと思われま。最後に、少子化の問題ということもあり各中学校の部活では、したくても出来ないスポーツがあるということが考えられるので、その辺をやはり考えながら生涯スポーツに関しても考えなければならぬと感じました。以上です。

○佐藤洋樹市長

ありがとうございました。お二人の方から、全体的にそれぞれの分野でお話をうかがいました。委員の皆様から、今のお話も含めて何かありましたら、お願い致します。今年の事業あるいは、それぞれの分野の取り組み、提案でもいいし批評でもいい、何でも結構です。

○草苺和男教育長

それでは、私の方から、今お二人からいろいろお話をいただいて、評価をいただいたものもありますが、例えば不登校の問題で菊地委員から出されましたが、30日以上学校嫌いで欠席をしているのは、小中学校合わせて約50人位、更に別室登校も含めると更に増えるわけですが、県内も多いのですが、寒河江市も少なくはない状況だと思っております。寒河江市では寒陵スクールという適応指導教室を実施しており、十数名在籍しておりますが、その中で学校に復帰したというのが、今年度だけで6名程いると聞いております。それから、不登校で寒陵スクールに来ている子の中で、3年生になりますと進学ということになりますが、それぞれの希望する高校に行っていると聞いております。そういう意味では、学校での学習はできないかもしれませんが、寒陵スクールという存在が、学びの一つの居場所になって効果を上げている点では、良いことかなと思われました。

芸術文化関係のイベントやスポーツ関係のイベントもあり、今2400人のさくらんぼマラソンという話もありましたが、当初は3000名を集めようという目標がありましたが、人を集めてイベントをするということは、大変難しいところがあるなということ、今年一年感じました。慈恩寺コンサートは別にしても、その他のいろいろな催し物で、時期的やいろいろな要因があったとは思いますが、十分な目標人数に達しなかったイ

ベントもありましたので、そういったところは来年度に向けて、十分に反省をしてしっかりやっていききたいなと思っておりますし、もう一つ美術館なども、入館者数がそう多くないと聞いておりますので、これも心して取り組んでいかなければならないと思いますが、美術館につきましてはフローラの賑わいと一体的に考えて、なんとか美術館の入館者を増やしていきたいものだなと思っております。

○佐藤洋樹市長

國井委員はいかがですか。

○國井晴彦委員

学力向上推進に関しましては、いろいろ資料にもありますが、PTAや現場の先生のお話等を聞いてみると実際の成績というか、数値というか、学校毎の成績状況をもう少し表に出しても良いのではないかと思います。結局中学生の時だったら受験の時でない自分のレベルがわからないでは、どうしてもものんびりしたイメージで、もう少し上に行こうとか、競争しようとかの意識が、先生、生徒共に出てこないのかなと思いました。やはり小学校、中学校の間で、どうしても中1あたりの成績を言われると中学校の校長先生は、それは小学校の責任でというような意見もありましたし、それは小中間のコミュニケーションと連携して、子ども達のレベルを上げていくことが大事だなと思いました。

スポーツの大会、先程さくらんぼマラソンの話がありましたけれども、トライアスロンは面白いなと思いました。都会から見て華やかなイメージがあって、さくらんぼマラソンの時はどうしてもよそでいろんなものがありますので、例えば参加した人のウェアを見ても、実に華やかで、ピンクとか黄色とか、ファッションとか、華やかさとか、どうしてもまだまだ、寒河江のスポーツ大会は汗臭いというか、頑張らなくてはならないという、もっと華やかでスポーツは楽しいよ、みんないっぱい出ようよという雰囲気、少し足りないかなという気がします。都会から見てお洒落、いろんなものが食べられるとか、慈恩寺をぐるぐる回れるとか、慈恩寺の修験道のトレイルランとか、裏道を走るような大会になったら沢山集まるのではないかな。都会の方から見てこの大会は面白いから出てみようといわれるように考えていくべきではないかと思いました。以上です。

○佐藤洋樹市長

ありがとうございました。それでは、松田委員。

○松田彌生子委員

先程、菊地委員から学力の話がありましたけれども、やっぱり学力というのは簡単に付くものではなく、時間が必要だということで学校も本当に一生懸命、先生方が指導していらっしゃると思います。先程、地域の方も借りながら、学校で子どもの力を伸ばしていか

なければならないと言われたのですが、放課後、例えば退職された先生を学校に来てもらうとか、地域で力のある方が沢山おられますので、そういう方を放課後來ていただいて、子どもたちに力を付けていく等という方法も、これから考えていかなければならないのかなと思います。

それから鈴木委員の方から、慈恩寺に関わる事業について、お話がありましたが、私も慈恩寺に関わる様々な寒河江市の事業、作戦は本当に素晴らしいなと思います。昨年、修験の道を私たちも歩かせていただきましたが、寒河江市にこんなに素晴らしいところがあるんだと、歩かせていただいて初めてわかりました。秋に開催されていますが、秋ばかりだけでなく、是非春の新緑の頃なども開催すれば、多くの方々に慈恩寺の良さを、知っていただけるのではないかと思います。私の友達からも、慈恩寺って凄いとこだねとよく言われます。その度に、一生懸命宣伝するのですが、様々な方法で、慈恩寺の良さを地域の方々と力を合わせ、協力しながら沢山発信して欲しいなと思います。以上です。

○佐藤洋樹市長

それでは、私の方からも申し上げます。

皆さんからは学力のお話がありましたが、先に高校の未来を考える会で、寒河江高校、寒河江工業高校、左沢高校の校長先生に来ていただき、いろいろお話をさせていただきましたが、寒河江高校に進学をする地元の子どもが段々減っていく。どうしても山形の方へという子どもが増えている。それで定員ぎりぎりな訳で、その子が将来目指すところに到達できる近道だとか、また本人や保護者の方も同じ様に考えられているようです。もちろん高校の魅力ということもありますが、中学校で指導する先生方からも考えていただきたいなと思います。

それからなかなか不登校が減らないということは、非常にゆゆしきことだなと思います。理屈からいえば、一対一で勉強すれば誰も不登校にはならないと思いますが、集団の中で競争や学校社会の中で学んでいくことに対して、適応できないということなのでしょうね。一人ひとり個性が違うので、そこら辺は寄り添うというような教育というか、丁寧にしていくしか道はないと思います。先生方には一生懸命頑張っただければなと思います。

國井委員からもありましたがスポーツに限らず、人を集めるということは、そのイベントに魅力があるから集まる訳ですので、その魅力をどのようにして出していくか、苦心するようです。毎年毎年繰り返すイベントなので、段々飽きられてくるので、新しい要素を入れていかないとダメということになります。一番端的な例は毎年していることで、毎年同じ人を呼んでも人は来ない。毎年違う人を呼ぶということで、毎年苦勞するわけですがそういうことも含めて、イベントというものは、やる方としては疲れることにはなりますが、ある程度定着すれば、さくらんぼマラソンは40回しておりますので、本当に魅力を発揮していれば人は集まるというふうになります。先程お話がありましたが、マラソン、

トライアスロン、自転車等も含めて、出来る環境にありますから目指しているのは、トライアスロン協会が昨年グリバーさがえを視察されておりますが、パラリンピックにトライアスロン競技というのがありますが、グリバーさがえは全体的に見渡せるので、非常に安全で、パラリンピックの中の、泳いで、走って、自転車という競技の練習会場として適しており、全国的に見てもコンパクトな施設は少ないので、活用出来るのではないかと、ということで協会からも大変興味を持っていただいております。

生涯学習のさくらんぼ大学も、ある程度軌道に乗りつつあるということで、学習の人気というものは毎年固まっていくということです。そういうようなニーズに応じていく内容にしていかなければならないというように思いますし、来年大学院を作ることも考えている訳であります。段々レベルを高くしていく部分も必要なのかなと思っています。もう一つはさくらんぼ大学、特に中高年の人が多く参加する訳ですが、元気な中高年が、学んだ事を生かして社会に貢献するきっかけになるような、大学の講座になることを目指して、新たなボランティア団体が出来れば、シルバー人材とはまた違う、中高年団体が生まれてくれば、非常にさくらんぼ大学の効果というものも、出てくるのではないかと思っているところでありますので、ご理解をいただきたいと思っております。

慈恩寺の修験の道は、松田委員からもありましたが、自然と四季の良さを含めてPRをして、特に慈恩寺は一朝一夕で情報発信することは出来ないで、時間をかけてじっくりしていったいいのかなと思います。毎年着実にしていくことで800年にふさわしいような、悠久の取り組みをしてもいいのかなと思います。よろしくお願ひしたいと思っております。皆さんの方から質問か何かございませんか。よろしいですか。

次の協議に移ります。

(2) これからの寒河江市の教育の推進にということで、29年度の方向性、あるいは主要施策、第6次振興計画について説明をお願いします。

○菅野英行総務課長

それでは、資料2をご覧ください。寒河江市振興計画について資料を作りました。資料に書いてあることにつきましては、振興計画と未来創生戦略、そして市長公約について、簡単にまとめたものでございます。最初に振興計画でございますが、昨年3月に平成37年度までの10年間のまちづくりの基本方針となります。第6次寒河江市振興計画を策定しております。ここには3つの重点目標と、5つの基本政策毎にさくらんぼや歴史など寒河江のいろいろな宝を生かして、市民みんなが笑顔で幸せに暮らし続ける街の実現を目指しております。一方、人口減少と経済縮小を克服するというので、全国で地方創成の取り組みが行われております。寒河江市におきましても、人口減少対策の基本計画と致しまして、さがえ未来創成戦略を策定しております。資料にありますように、3つの基本目標のもと人口増に向けまして、強力に取り組んでいるところであります。そして市長は、昨年12月の市長選挙におきまして、この振興計画とさがえ未来創成戦略をふまえ、この

4年間で目指すところの寒河江が一番を実現するための、3つの公約と具体的な事業を公約で示しております。2枚目の資料で平成29年度の主要な施策と致しまして、一般会計当初予算の内容を説明させていただきます。平成29年度の予算は、振興計画の実現、未来創成戦略に基づく人口減少対策の加速化等を基本方針といたしまして、また重点テーマとして、人口減少対策の加速化等に少子化対策、移住定住支援、交流人口拡大を3つの柱に予算を編成しております。そして市長公約の3つの思いを念頭におきながら、夢と希望の持てる元気な寒河江の実現を目指すとして、総額が181億6500万円、対前年比4.5%の増となりまして、当初予算としては寒河江市の過去最高額の予算となっております。またこのような積極予算とともに財政健全化ということにも重きをおきまして、予算額は非常に増えておりますけれども、借金の残高につきましては、減少をしております。また借金の比率であります、実質公債費比率につきましても、過去最低の率にする予算となっております。主な事業として資料に掲載しておりますが、資料は振興計画の基本政策毎に、主な事業を抜粋したもので、説明についてはかい摘んで申し上げます。

一つ目の少子化対策につきましては、子どもがすくすく育つまちという事業になりますが、小中学生を含めた子育ての事業に重きをおきまして、多くの新規事業を実施することにしております。中身としてはいろいろありますが、段階的に無料化を目指す学校給食費の補助事業や、中学校3学年教室等空調整備なども取り組んでまいります。またインフルエンザの予防接種助成事業等拡充してすすめる事業もあります。

次の移住定住支援では、活力と交流を創成するまちの政策に係る事業が組んであります。裏面になりますが、さがえ未来奨学金返還支援制度の創設とか、子育て定住住宅建築事業等取り組んでまいります。

三つ目の交流人口拡大といたしましては、複数の政策がありますけれども、活力と交流を創成するまちの中で、自転車活用まちづくり協議会の負担事業で自転車を活用したイベントの実施やフルーツライン左沢線の活用事業がございます。また一人ひとりが力を発揮するまちの施策の中で、慈恩寺の総合案内施設整備事業とか、便利で快適に生活できるまちの中で、公園整備事業とか、寒河江公園整備事業等に取り組むことしております。主要な事業につきましてはかい摘んで申しあげましたが、資料を見ていただきながら、また多くの事業に取り組んでおりますのでご覧いただければと思います。

○佐藤洋樹市長

続いて、教育委員会関係の主要な事業計画について説明をしてください。

○山田健二学校教育課長

それでは資料3、平成29年度寒河江市教育委員会主要事業計画(案)をご覧くださいと思います。始めに学校教育について私の方から、後ほど社会教育について高林課長の方から申し上げます。まず、学校教育についてですが、基本方針を4つ定めております。

1つ目は、授業改善と確かな学力の育成であります。2つ目は、いじめ、不登校への対応です。3つ目は、特別支援教育の充実です。そして4つ目は、これからの学校づくりへの対応です。

この4つを基本方針として進めて参りたいと考えております。具体的に主な事業を申しあげたいと思います。

さがえっこ育み推進事業の中では、さがえっこ育みの10か条を、学校・家庭・地域で取り組んでおりますけれども、現在のリーフレットを新たに作るだけでなくポスターも作りまして啓発に努めたいと思います。またそれだけでなくフォーラムを新しい形で再度開催し啓発を図ってまいります。

学力向上推進事業の中では、特に新聞が学力の向上に大きく関わるという指摘もありますので、新聞購読の推進を図りたい。具体的には小学校5年生から中学校3年生の全クラスに、新聞の購読を推進してまいります。

英語力育成事業につきましては、・小中連携による系統的な英語教育の推進や、英語だけで一日を過ごすような新規事業としてイングリッシュディにも取り組んでいきたいと考えております。

それから5番の教育研究推進事業ですが、市教育委員会の指定研究が中学校区毎に変わりました。そして2年次を迎えます、西根小、寒河江中部小、高松小が公開發表を致します。3校が中学校区毎に発表するというのは、初めての取り組みとなります。また市の教育研究所も組織を改めましたので、学力向上を重点化した中学校区毎の連携を活かした取り組みを進めて参りたいと考えております。

11番になりますが、学習補助員配置事業では教員免許を持った、有効な教員免許所有者の活用を図ってまいります。教員免許を持っているということで、単独での学習指導、取出し指導、放課後の学習支援等が可能になりますので、様々な面で、この事業の拡充を図ってまいります。

16番の就学援助事業では、いわゆる準要保護といわれる児童への給食費を、全額支給する形に変えて参ります。

18番小中学校管理事業の中では、トイレ洋式化ということで、小学校の中高学年女子トイレに洋式便器を増設いたします。また西根小の暖房用ボイラー、及び煙突の更新、陵東中の暖房用ボイラー煙突の新設工事、中学校3年教室、特別支援教室の空調設備整備等を図ってまいりたいと考えております。

21番体育文化活動支援事業では、中学校の体育文化関係大会への参加費の全額と交通費と宿泊費については、7割のものを8割に上げまして、補助したいと考えております。

23番学校給食事業については、給食費の保護者負担を軽減し、子育て世代を支援することで、子どもを育てやすいまちづくりに寄与していきたいと思っております。また、地産地消の推進を図るということにも、積極的に取り組んでまいりたいと思います。

○高林雅彦生涯学習課長

引き続き、生涯学習課分についてご説明申し上げます。まず、社会教育についてであります。第2次教育振興計画の基本目標の推進にあたり、次の4点を推進していきたいと考えております。

1つ目は、文化財の保護であります。先人たちが残した多くの文化遺産を適切に保護し、後世に引継ぐため、郷土の歴史や文化を守り伝える活動を支援するとともに、史跡慈恩寺旧境内については、整備基本計画を策定し、ガイダンス施設等史跡整備の取組を進めてまいります。また、慈恩寺講演会や慈恩寺修験の道ウォーキングなどを開催し、慈恩寺文化の情報発信に努めてまいります。

2つ目は、地域コミュニティの活性化であります。地域への誇りと愛着を育む地域の特色を生かした活動を支援するとともに、地域の人たちがふれあい・支えあい・交流しながら地域の絆を強める事業の推進を図ってまいります。そのため、分館の耐震補強や増改築工事、エアコン設置や照明のLED化等分館の施設整備に対する支援や公民館活動事業、生涯学習支援事業による分館活動への支援を行ってまいります。また、地区公民館への寒河江型コミュニティセンターの併設についても検討してまいります。

3つ目は、寒河江さくらんぼ大学の充実であります。市民の学ぶ意欲を一層喚起するため、開講講座のスケールアップや、より高い学習意欲に応えるため、新たに慈恩寺について専門的に学ぶ大学院を設置してまいります。また、実践活動を通して人材育成を図る地域づくり仕掛けマイスター養成講座を開設いたします。

4つ目は、これからの図書館づくりです。市民の多様な学習活動や読書活動を支援するため、市民ニーズを考慮した図書資料等の整備充実と、快適で利用しやすい図書館づくりを図ってまいります。また、多彩な読書普及事業をはじめ、様々な読書機会の提供に努め、読書活動の広がりを支援してまいります。

続きまして、社会体育についてでございますが、スポーツは心身の健全な発達、健康及び体力の増進など、私たちが生活を営む上で不可欠なものであり、生涯にわたって健康で明るい生活を送ることは、すべての市民の願いであることから、スポーツを通して人と人をつなぎ、地域の交流を促進し、健康で生き生きとした生涯スポーツ社会の実現を目指してまいります。平成29年度は、全国高等学校総合体育大会が南東北3県で開催され、本市では男子バレーボール競技を開催します。施設の整備を図り、本市の魅力を発信しながら、スムーズな大会運営に取り組んでまいります。また、地域スポーツの振興に大きな役割を果たしている寒河江市体育協会の法人化と組織力強化の支援をしてまいります。以上、平成29年度の事業計画の説明を終わります。

○佐藤洋樹市長

第6次振興計画、あるいは未来創成戦略、私の公約等について、総務課長の方から説明がありましたが、私の公約は4年間の公約ですので、もちろん今年全部するというにはな

らないので、第6次振興計画については10年間、未来創成戦略については5年間で実施するということになります。そういう意味で人口減少を食い止めていながら、安全安心なまちをつかって、寒河江の良さを全国にアピールする、PRするような取り組みをしていければとして、公約をさせていただいております。その一部について新年度予算の中で取り組もうとしている訳であります。給食費が入っているので相当な額になっています。

○山田健二学校教育課長

エアコンもありますので、伸びています。

○佐藤洋樹市長

皆さんの方から何かありませんか。次年度の教育等について、皆さんの方からお話をいただきたいと思います。まずは、松田委員からお願いします。

○松田彌生子委員

今の説明をお聞きして、子どもがすくすく育つまちづくりを一番の基本政策にあげておられることに、私は大変力強く、心強く感じたところです。私の方からは、英語教育と特別支援教育について申しあげます。寒河江市の中学校の英語力向上というのは、私たちにとって大きな課題だと思っていますが、昨年8月からALTの配置が3名になったというのは、今後の英語学習の充実に大いに期待できるものだと思っています。小学校では、2020年度から英語が正式な教科になるので、英語を教えられる教員を育てる取組が必要になってきます。小学校の先生方は、非常に不安な気持ちを抱えているなと思います。そのため小学校の英語の授業をきちんと研修する機会を多くし、ALTの方と共に優れた授業を作りあげて、それを広めていく努力を、是非大切にしてほしいなと思います。また中学校区毎に、小学校5・6年生の先生と中学校の英語科教員が連携して、研修が進められるような指導体制を、是非工夫してほしいなと思います。

次に、特別支援教育についてですが、各学校には特別に支援を要する子ども達が沢山おられて、本当に一人ひとり障害が違いますので、その子ども達を指導する市の学習補助員の先生の力が本当に大きくて、子ども達にとっても、保護者にとっても、学校にとっては無くてはならない存在だと思っています。また、通常学級に在籍して、やはり配慮が必要な子ども達というのも多いので、各学校での学習補助員の先生方をどんな時に、どのように活用していくかが、これから大きな課題になって来ると思います。小学校では、英語も教えなければならない、道徳も研究しなければならない、支援を要する子ども達も年々増えていく状況で、市の学習補助員の先生方の配置を、一層拡充してほしいと強く思います。以上です。

○佐藤洋樹市長

國井委員いかがですか。

○國井晴彦委員

ふるさとの教育と社会スポーツ振興について、話をさせていただきます。都会に行くと、寒河江と言った時に、読める人がまだまだ少ないと思います。特別に、この寒河江市から高校、大学そして都会に出て行った時に、堂々と山形の寒河江市出身だよと言えるか、やっぱり出ていった人間が、おっ、お前寒河江か、さくらんぼで有名なんだよな、慈恩寺で有名なんだよな、と日本中の人から思ってもらえるような、ある程度の知名度を上げていかなければならないと思うし、それだけ誇れるまちにして行くのが一番かなと思います。今後どうしても若い人が都会に出ていくのは仕方がないと思いますが、必ず疲れてきますので、疲れて帰ってきた時に、寒河江にUターンするような政策を実施していただきたい。

その他、市長の公約の中に給食費のことが出てきますが、非常に素晴らしいなと思います。まわりの市町村でやってないのに、いち早く取り組むのは凄いなと思いますが、財源にいろいろ問題あると思われま。ふるさと納税は日本全国の人が、さくらんぼのお返しがあるのでと思うのですが、やはり寒河江市の場合は、寒河江市から出ていく人間が、社会人になったら、寒河江市にふるさと納税しなさいというような、特産品目当てではなくて、特産品はいらぬから、特に給食費のために使ってくれというようなことを、中学校3年の時から吹き込んでいって、寒河江市に帰ってこなくても、税金だけは寒河江に払うよというような子ども達をいっぱい育てていく方法はないかなと思います。そうすると財源も心配ないかなと思っております。どうしても長寿社会になってきますので、文化面でのいろいろな事業に参加していただいて、レベルの高いお年寄りがいっぱいいる寒河江市という形にしていだけないかなと思っております。以上です。

○草薙和男教育長

子育てに予算を大胆につけていただきましたことに、本当に嬉しく思っておりますし、教育委員会もそれだけ責任が大きいなというように、あらためて思っているところです。私からは喫緊の課題として、これからどうしても、避けては通れない、今後の寒河江市の学校の在り方についての今の考えですが、平成26年に生まれた子供が303人だそうです。平成27年は334人だそうです。昭和55年は、575人いたそうですので、半分近くまで減ってきているというのは、随分前から言われてきていることですが、これまで何回も、皆様に申しあげたよう、今後10年位たてば大部減ってしまう学校がほとんどだということになりますので、今後の寒河江市の学校の適正配置、適正規模等については、考えていく必要があるなと思っております。よく標準的な学級数というのは、一つの学校で12クラスから18クラスだと、小中学校共に言われる訳ですが、望ましい学級規模となりますと小学校は、複式がない最低6学級、出来れば学級替えが可能な12

学級以上、中学校でいうと学級替えが可能な6学級以上、あるいは、免許外教員を無くすためには9学級以上と言われておりますが、そういう教育的な部分からも考えて、今後どのような適正規模、適正配置の基本的な方針を明確にしていく必要があると思います。今年度も学校視察をしたり、あるいは課内で打ち合わせをしたりしていましたが、今後学識経験者等も交えた勉強会の様なものから立ちあげて、そして地域の方やその他の方を含めた、検討委員会等へ繋げていく必要があるのかなと思います。その中で、小中一貫校新設の取り組みとか、コミュニティスクールのこととか、統廃合や学区再編等が話題になってくるのではないかと考えられるわけですが、とにかく全市的なあり方を今後考えてまいりたい。来年度も、そのように動いていきたいものだと考えているところです。

○佐藤洋樹市長

はい。ありがとうございました。菊地委員いかがですか。

○菊地道子委員

英語教育ですが、小学校で指導する先生の負担が大変大きいだろうなという様な気がします。話せるということを目標にすることが柱なので、英語の理解や日常生活について会話ができるというレベルまで、小学校で出来るためには、これから検討なさると思いますが、大変なのではないかと思っております。学校で教える内容が多くて、ついていけない子も結構いますので、特に英語と数学については、力の差が大きくて、上の子を伸ばして、下の子を拾い上げるというのは、一人の先生が全てやっていくことは、中々難しいと思うので、十年先、二十年先を見据えながら、教育委員会の方でどのように持っていくかの指導や計画を立てていただきたいと思っております。

○草苺和男教育長

英語教育は、どこの学校でも、あるいは全国的にもいろいろ注目されており、教育団体も要望しているようですが、学校に専科教員、英語の別枠で、担任とは違う専科教員を配置してほしいというようになるのが一番いいなと私は思います。中学、高校の英語免許を持っている先生が、小学校にも配置されるようになれば、かなり狙いに沿った英語教育が成されるかなと思いますし、英語が3年生以上、教科としては5年生からですが、先生方には確かに負担になると思いますし、全国的に小学校で英語をやるけれども、中学校へ行って英語嫌いが増えてしまうということも懸念されるという報告もありますので、そこはやっぱり十分配慮して行かないと、小学校で英語なんていやだとなると、これまた問題だなと思いますので、いかに楽しい英語の学習ができるかというところが、大事にしていかなければならない事だなと思いますし、学校へもそんな指導をしていきたいなと思っております。

○佐藤洋樹市長

指導体制をどのようにするかとか、指導する先生を養成するとかは、これからなのか。

○草苺和男教育長

基本的には、5、6年生は担任がやる。もちろんALTが協力しても良いのですが、文科省の考えは、基本的には教員がやるということになっています。

○佐藤洋樹市長

そういう人を採用するという事はないのですか。

○草苺和男教育長

採用の時に、英語のテストをきちんとして採用するという県は多いようです。山形県の採用試験では英語も入れてやっています。私は、もっと英語教員を採用して、中学校だけでなく、小学校にも一定の学校規模であれば、専科教員を配置する位のことをやっていたらと思います。

○佐藤洋樹市長

中学校の英語教諭も変わってくるのでしょうか。今のままでいいのですかね。

○草苺和男教育長

中学校も基本は、英語で英語の授業をするということです。

○國井晴彦委員

先日、ロータリークラブで台湾の方から子たちが来た時に、あの子ども達は結構英語が達者でした。きれいな英語でしたので、台湾と比べると、日本の中学生の英語はかなり下です。

○佐藤洋樹市長

台湾は、3か国位の言葉を話しますかね。

○國井晴彦委員

そうですね。今の中学生は、多分英会話が出来ないということですかね。国際比較では厳しいと思います。

○草苺和男教育長

文科省の目標が、中学生で英語検定3級を50パーセントと言っています。寒河江はまだ50パーセント行っていません。年度によって違いますが、昨年度は30数パーセントだったと思います。

○佐藤洋樹市長

英語検定3級とは、どの程度ですか。日常会話ができる程度ですか。

○草苺和男教育長

簡単な英会話は、出来るという程度です。

○佐藤洋樹市長

鈴木委員いかがですか。

○鈴木淳一委員

いろいろお話を聞いて、一番大変なのは学力の向上に向かって、その中でも英語が必要になって来る時代に来たのかなと聞こえました。市としても学習環境を整えるため、遂に中学生のクラスにエアコンが入ることになったことは、次の子ども達はきっと学力向上につながるものと期待すべきだと思います。また親御さんには、給食の補助も入ることによって、県内からも注目されるまちになっていくんだということで、保護者にも期待をしているということ、教員だけではなく伝えていくべきだなと思います。以上です。

○佐藤洋樹市長

それでは、私の方から。先程、國井委員からお話がありました、ふるさと納税ですが、29年度は15億円を見込んでありますが、28年度の実績というのは、大体22億円位になる予定です。返戻金が半分と手数料ですので、残り2割5分が手元に残り、その善意を使えることになりませんが、委員が言われたように恒久財源ではありませんし、競争相手がいっぱいいるわけなので、15億円見込んでおりますけれども、その通りになるかはわからないという状況なので、これを学校給食の補助等に将来的にも使えるかどうかはわかりませんが、考え方として29年度予算は、切り詰めた財源を学校給食にあてたということです。

それから、先程Uターンのお話でしたが、奨学金制度そのものについて寒河江市はありませんが、周辺の自治体ではそれぞれ奨学金制度というものを作っています。今回の予算では奨学金制度というのは、創設を致しませんでした。国の方でも奨学金制度的なものを考えているということもあって、それらの状況を見ながら今後取り組んでいく必要があるということで、創設は致しませんでした。奨学金返還の支援ということについては、県の制度がある訳ですけれども、それとは別に市独自の奨学金返還支援制度を作ら

せていただきました。資料の裏のページの1千万という部分で、県の制度に乗らない夫婦のどちらかがUターンした時に返還を支援するというようにしています。Uターンで定住人口の推進という取り組みをさせていただいております。1千万円ですから、6人か7人分と考えております。基金として一千万円を積んで、希望する人に支援していくという形になります。毎年ある程度の基金を積んでいくのかなと思っております。

それから、松田委員から特別支援教育の話がありましたが、児童数については少しずつ減っておりますが、ニーズの多様化では細やかな支援を必要とする子どもは減っていない状況にあります。予算については、苦心をして取り組みましたけれども、出来るだけ人口減少対策について、寒河江市は本気で取り組んだということ、内外にアピールしていくという内示でありました。そういう意味も含めて予算編成にさせていただいております。

鈴木委員からは、エアコンの話がありましたが、エアコンは夏が暑いと出てくる話題です。暑くないと出ない話題ですが、全部の教室にエアコンを入れると、十億円位かかると言われていますので、なかなかすぐには取り組めない訳ですが、小中学校を管理している市の行政としては、高校受験を控えた中学校3年生教室から順次していく予定ですが、ただ毎年順序良く進むかは難しいかもしれませんが、各家庭ではエアコンがあつて学校に来ると暑くて駄目だという状況について順次解決し、学びの快適化を図っていきたいと思います。ただし今年の夏は工事に入れる時期の関係で、間に合わない可能性があります。その他、皆さんの方から何かありませんか。よろしいですか。特に無いようであれば、(3) その他。何かありませんか。無いようであれば、4のその他。

○山田健二学校教育課長

それでは、4のその他でございますが、来年度の予定ということで、来年度も2回総合教育会議を開催していきたいと考えております。1回目は、9月から10月、29年度の市の教育の進行状況について、また教育課題等の対応について、お話しいただければと思っております。また2回目も今年と同じく2月頃を予定しております、29年度の総括と30年度への展望等についてお話しをいただくということで、計画をしております。

5 閉 会

○佐藤肇管理主幹

それでは、長時間にわたるご協議、誠にありがとうございました。以上を持ちまして、第2回寒河江市総合教育会議を閉会したいと思います。大変ご苦勞様でございました。

午後5時08分 終了